

日本史探究 2026 年度 出題の意図

第1問は弥生時代から古墳時代、第2問は院政期から鎌倉時代、第3問は江戸時代前期から享保期までを中心に、政治史・外交史・社会経済史・文化史を偏りなく出題し、各時代の特色を理解しているかを問うた。リード文や史料を用いた空欄補充問題、語句選択問題、文章選択問題、語句記述問題を組み合わせ、歴史用語の正確な知識と時代相を整理する力を重視した。

第1問は、弥生時代から古墳時代にかけての社会変動と東アジアとの関係を取り上げた。『漢書』地理志などの中国史書に見える倭の記述から国家形成の前史を確認するとともに、箸墓古墳や大仙陵古墳といった出現期・中期の古墳に関する基礎知識、ヤマト政権の支配体制への理解を問うている。文献史料と考古資料を結びつけて時代の流れを捉える力を測った。

第2問は、『中右記』や『御成敗式目』などを手がかりに、院政の成立から鎌倉幕府による武家法の整備に至る過程を扱った。院近臣・知行国制といった院政期の支配構造、平治の乱を経た平氏政権の台頭、北条泰時による「道理」に基づく法典編纂への理解を確認し、史料の語句から時代背景を読み解く力を測った。

第3問は、江戸時代前期の産業・交通の発達から元禄文化、徳川綱吉から吉宗による享保の改革までを出題した。菱垣廻船の就航や河村瑞賢による東廻り・西廻り海運の整備など全国市場の形成に関わる用語、松尾芭蕉の俳諧や尾形光琳らの琳派に代表される元禄文化の担い手を確認するとともに、享保の改革に至る幕政の転換を、近世社会の経済的成熟と結びつけて把握しているかを確認した。

※各問いの詳細は、一般選抜A一日目の内容に基づいて記載しております。